

建設業の三大災害とは？

建設業における三大災害は、以下の3つの事故に分けられます。

- 建設機械の事故
- 墜落・転落の事故
- 崩壊・倒壊の事故

建設業は高所や重機等が出入りする危険な環境で作業することが多いため、死亡災害発生率がほかの産業と比べて高くなっています。中でも三大災害による事故が約半数を占めているため、細心の注意を払って作業をする必要があります。

危険な事故を未然に防ぐためにも、まずは三大災害の災害内容や事故事例について見ていきましょう。



1：建設機械

三大災害の一つ目は、建設機械による事故です。建設機械による死亡事故は、全体の1割程度で決して少ない数ではありません。建設現場は、クレーン・ショベル・ブルドーザー等の大型の建設機械が頻繁に出入りします。

具体的な災害事例は、以下のようなケースが挙げられます。

- ・ 建設機械が接触する
- ・ 建設機械に巻き込まれる
- ・ クレーンで運ぶ機材が落下して下敷きになる
- ・ クレーンが転倒して一般車両を巻き込む

建設機械を扱う際は点検や安全確保を徹底して行い、作業員同士の意思疎通を図ることが大切です。

建設機械・クレーン等災害



2：墜落・転落

三大災害の二つ目は、墜落・転落による事故です。三大災害の中でも最も死亡率が高い事故で、死亡事故の全体の3～4割を占めています。近年建設業の従事者の高齢化によって、転倒事故や交通労働災害が増加傾向にあるのが現実です。

具体的な災害事例は、以下のようなケースが挙げられます。

- ・足場や屋根の上で足を滑らせる
- ・手すりが外れて転落する
- ・荷重超過が原因で作業床の梁が折れる
- ・マンホールの穴に落ちる

建設現場は、高所等で作業することが多いため、万が一の落下に備えた安全対策の徹底が必要不可欠です。

墜落・転落災害



3：崩壊・倒壊

三大災害の三つ目は、崩落・倒壊事故です。建物の土台となる部分の補強が不十分な場合、倒壊・崩落する危険があります。また、台風・大雨・竜巻等の自然災害が関係することもあります。

具体的な災害事例は、以下のようなケースが挙げられます。

- ・ 自然災害で足場が倒壊する
- ・ 荷崩れした機材の下敷きになる
- ・ 下水配管の建設現場で堀削法面が崩落し土砂が直撃する

台風・大雨等の自然災害が起きた場合は早めに作業を切り上げ、作業員の安全を確保することが第一です。

崩壊・倒壊災害



建設業の三大災害が起こりやすい時期

建設業の三大災害が起こりやすい時期は、8月・10月・12月・2月です。事故が起きやすい原因については、以下の通りです。

- ・8月…暑さ
- ・10月…激しい寒暖差
- ・12月…寒さと年末の繁忙期
- ・2月…年度末の繁忙期

建設業は野外での作業になるため、気温や天候等に左右されやすいです。また、年末や年度末等、納期に間に合わせるために急いで作業することも事故が起こりやすい原因だと推測されます。

事故が起きやすい時間帯は、午前11時頃です。作業開始の7時頃から右肩上がりで、お昼前の11時頃がピークとなっています。作業の疲れやお昼休憩前の気の緩みによって、事故の発生に繋がっていると推測されています。

そのため、三大災害が起きやすい時期や時間を朝礼等で定期的に周知し、常に危機感を持って作業をすることが大切です。

建設業の三大災害が発生する原因

建設業の三大災害は、建設現場の整備不足、作業員の不注意、誘導員不足、天災、従事者の高齢化に伴う機能低下等が原因で発生します。

墜落・転落事故は、手すりや足場の固定が不十分、安全帯を不使用で作業すること等が原因で起きています。気の緩みが出やすい作業や繁忙期でも、徹底した安全管理が必要です。

建設機械や機材による事故は、点検や確認不足が原因で多く発生しています。建設機械・機材は、「急に動き出したり落下したりするかもしれない」という意識が大切です。

墜落・崩落事故は、強風・竜巻・大雨等の天災による原因の事故が多いです。ほかにも補強が不十分な場合や、設計上のミスが原因の場合もあります。天災の際には早めに作業を中止し、日頃の点検作業も怠らずに行うようにしましょう。



建設業の三大災害の防止策

建設業の三大災害を未然に防ぐためには、従業員が健康で安全に働ける環境を整える必要があります。そこで、建設業の三大災害防止のポイントを紹介します。

- ・安全対策の徹底
- ・転落や飛来物に備える
- ・従業員のストレスケア

建設現場では、少しの気の緩みによって大事故に繋がることも多いです。建設現場の管理者は、先を予測した作業計画を立て、従業員がミスをしにくい環境に整えることが大切です。

■ 作業員の安全意識を高める

作業員の安全意識が低いと事故が発生するリスクが高まります。社内研修や外部研修などを活用し、作業員の安全に対する意識を高める取り組みが重要です。すべての作業員が、いつも事故のリスクと隣り合わせであることを強く意識し、安全第一であることを念頭に置いて作業を行える環境を作っていきましょう。

■ リスクアセスメントを導入する

リスクアセスメントとは、職場のリスク要因を見つけ出してそれを取り除いたり、低減したりするための取り組みを指す言葉です。具体的には、潜在的なリスクの洗い出しを行い、リスクの程度を見積もって対策を検討します。対策がまとまり次第、それを現場で実行する手順となります。

■ 余裕を持った人員の配置・管理

人員不足が要因と考えられる事故の事例も、数多く報告されています。特に、建設機器や車両を用いて作業を行う際、誘導員の不足による事故の発生も問題視されています。作業員の管理体制を整えるとともに、余裕を持った人員の確保と配置を徹底することが必要です。